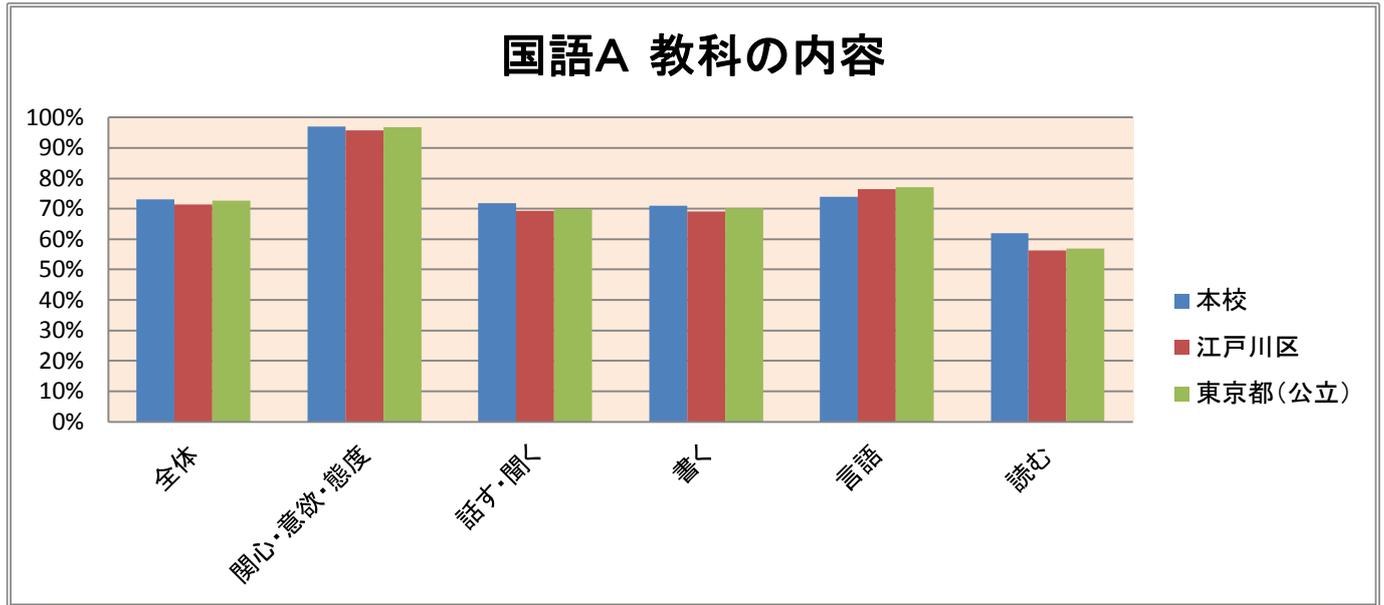


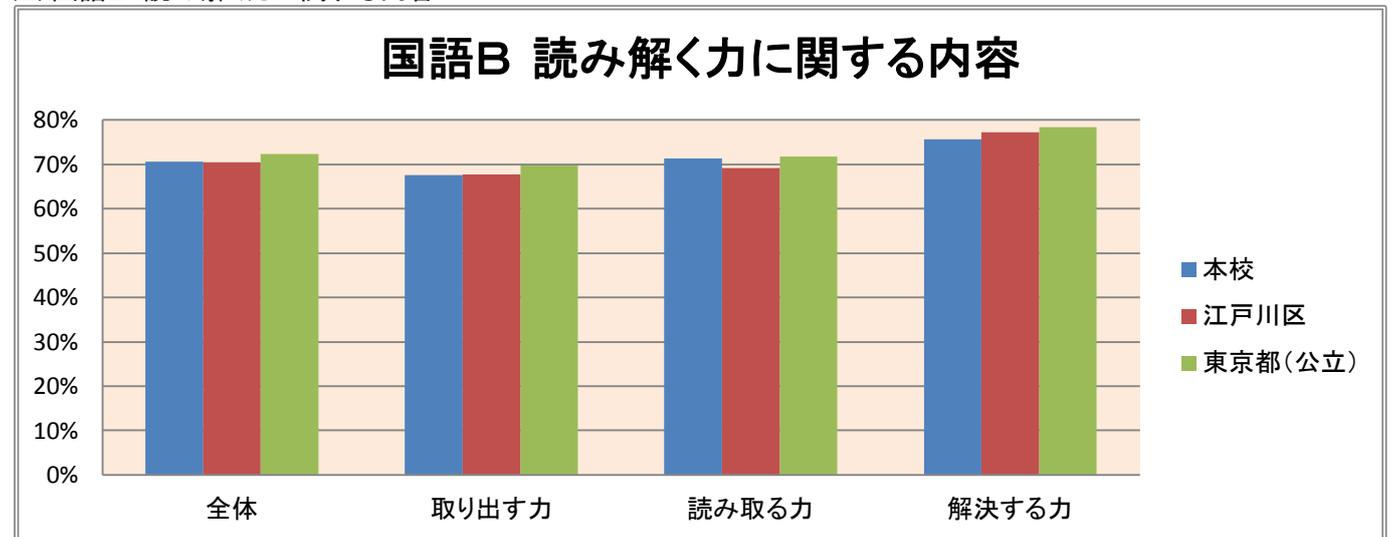
1. 分類ごとの平均正答率

(1)国語A:教科の内容



本校の正答率は、全体で73.1%となり、江戸川区の平均を上回り、東京都と同じ数値になっている。観点別に見ると、東京都・江戸川区を上回るものが多いが、「言語」に関しては、東京都・江戸川区を下回る結果になっている。

(2)国語B:読み解く力に関する内容



本校の正答率は、全体で70.6%となり、江戸川区の平均とほぼ同じだが、東京都を下回る数値になっている。観点別に見ると、「読み取る力」は東京都とほぼ同じだが、「取り出す力」「解決する力」に関しては、東京都・江戸川区を下回る結果になっている。

2. 今後の生活に活かすポイント (正答率が低かった問題)

●「言語」の力について

「言語」の力を伸ばすために、漢字テストの定期的な実施と、それに伴い、読み取り・書き取りの反復練習を取り入れていく。また、「話す・聞く」や「書く」の指導と関連させ、「読める・書ける」から「使える」につなげ、語彙を増やし語感を磨く指導を充実させていく。例えば、文章を書かせる際に、「四字熟語を三つ効果的に使う」、「熟語を20種類以上使う」などの条件をつける。また、スピーチなどを発表させる際に、「ことわざを二つ以上入れる」や「外来語を使わない」などの工夫をさせる。こうすることで、意図的に言葉に向かい合い、語彙力の育成につながると思う。

●「取り出す力」「解決する力」について

「取り出す力」を伸ばすために、文章や図表などから正確に情報を読み取ることの指導を丁寧に行う。また、課題に応じて読み取った情報を取捨選択したり組み合わせたりすることの指導を行う。

「解決する力」を伸ばすために、文章を読んで内容を正確に理解するだけでなく、テーマを設定し、その課題に沿って文章を読ませたり、情報を収集・整理させたりする。そのような取り組みを通して、必要に応じて的確に情報を処理できる力を身につけさせる。

授業では、単元を通じて「何をするのか」、「どのような力を身につけるのか」を明示し、意識させる。また、問題解決的な学習活動を効果的に取り入れる。「情報の収集・処理(何を根拠に)→考えの形成(どう考え)→発信(どう発信するか)」の学習過程を可能とする課題を設定する。